

第33回 ACL フェスティバル コンファレンス フィリピン大会参加報告

Participation report of The 33rd ACL festival and conference Philippine.

谷中優(日本作曲家協議会)

Suguru TANINAKA (JFC)

(キーワード)

ACL フェスティバル・フィリピン、合唱、論文セッション、大会運営

要旨

(1) 第33回 ACL 国際フェスティバル・コンファレンス・フィリピン大会

毎年各国持ち回りで開催される ACL 国際大会は、今回2015年11月6日-11日の6日間に亘ってフィリピン大学(マニラ・ディリマン)にて開催された。内容は合唱、電子音楽、伝統音楽、オーケストラ、室内楽、吹奏楽、マルチメディアのコンサートに加え、論文セッションやワークショップ等があり、筆者にとっては久々の参加となった。期間中、審査によって選ばれた作品を中心に地元の演奏家・演奏団体による多くの作品が演奏された。

(2) 合唱と論文セッション

ここでは筆者の作品が採り上げられた次の2つのイベントについて述べる。

合唱コンサート(11月6日)

コンサートは夕刻のオープニング・セレモニーの後、会場を音楽学部の Abelardo Hall に移して開催された。フィリピン、台湾、香港、ニュージーランド、日本、マレーシアの6ヶ国、14作品の演奏。日本からは2作品が選ばれ、筆者の「Mixed Chorus “Topology of Love” -for 12 voices-」、Kazuhiko Hattori の「Yours」の2作品が演奏された。

作品群の全体は、従来の語法を念頭に置きつつ新しいものを求めようとする姿勢の見られるもの、あるいは、より新しいのを追求し、そこから表現の可

能性を見出そうとするもの等多様な作品があり、興味深い作品が多くみられた。

コンファレンス(論文セッション) (11月9日)

コンファレンスは College of Engineering Theater(8:00-16:00)にて開催された。基調講演のあと、各小テーマに分かれた4セッションが並列的に進行する。フィリピン、シンガポール、日本、韓国、タイ、オーストラリア、インドの7ヶ国、10本の発表があった。(内日本人の発表は4本)

筆者の「Considerations about Reconfiguring Music, Nature and Myth」のテーマは、本コンファレンスの課題テーマでもある。(筆者の場合-via analysis of my works-の副題が付加するが)

以下に日本人発表者と各テーマを記述する。

Koji Nakano 「Collaboration with Nature and the Environment」、Tomoko Momiyama 「Listening to the Inaudible: Role of Music in Today's Society for Promoting Communication between People and their Environments」、Motohide Taguchi 「Reconfiguring Music Through Re-Defining the Role of Players in Composition Works: Three Innovative Examples from Asia」

(3) 最後に

今回、プログラム等印刷物は極力ペーパーレスであったこと等多くの工夫が見られた。ただし大会の準備・運営そのものについて再考の余地は残されているだろう。